

交番・駐在所の 再編整備について

千葉県警察

令和7年11月

はじめに

- 1 交番と駐在所の違い
- 2 駐在所の抱える課題
- 3 駐在所の在り方を見直す必要性
- 4 再編整備の主な内容
- 5 おわりに



はじめに

千葉県警では、匿名・流動型犯罪グループ等による新たな犯罪が台頭する中、治安課題に的確に対処できる組織を構築するため、業務の合理化・効率化を引き続き推進するとともに、交番・駐在所における地域警察官の配置・運用を最適化していく必要があります。

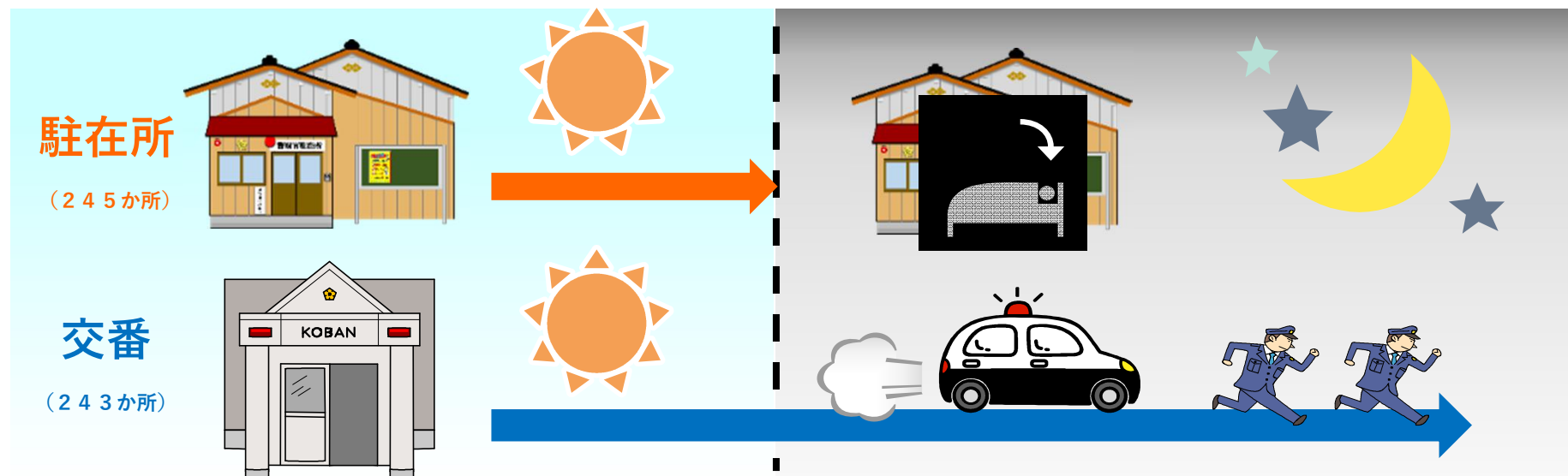
そのため、警察署の限られた人材を最大限に有効活用して管内全域の治安維持に向けた警察力を確保することを目的とした、交番・駐在所の再編整備を実施いたします。



1 交番と駐在所の違い

駐在所勤務員は、基本的に駐在所に居住し、平日の午前8時30分から午後5時15分までの毎日勤務（日勤制）をしています。

そのため、夜間に駐在所管内で発生した事件・事故等の対応は近隣の交番やパトカー等で対応しています。



交番との違いについてですが、交番は都市部、駐在所は都市部以外に設置するとされています。

駐在所が昼間帯に開所しているのに対し、交番は昼夜を問わず、24時間、勤務員が交替で警察活動を行う点が大きな違いです。



1 交番と駐在所の違い



年間の勤務時間の差異

駐在所は基本的に一人の勤務員が平日の日中帯に、1日約8時間の勤務をしています。勤務員の休暇取得を考慮して計算しますと、勤務時間は1日約8時間×年間約230日間勤務をしていることとなります。

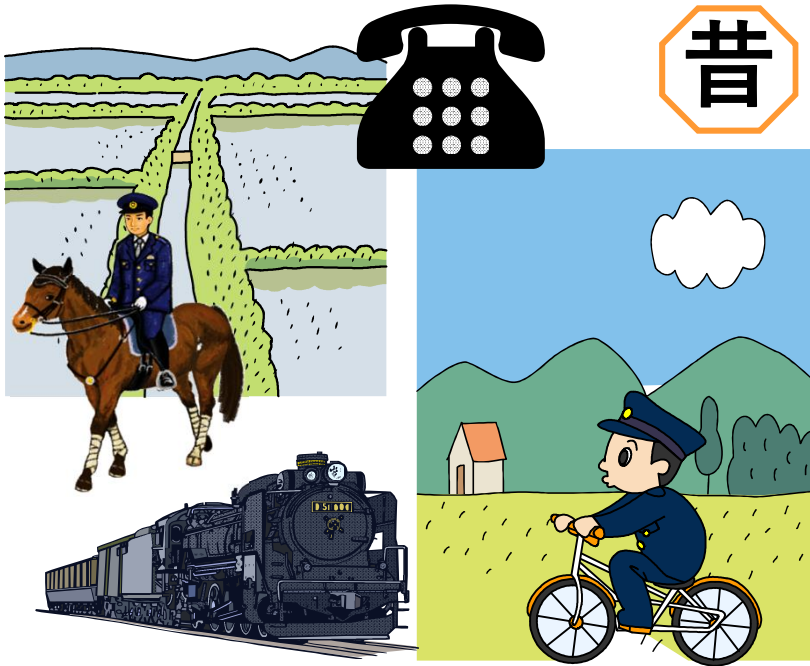
対して交番は、原則24時間×365日間、勤務員が活動していることとなります。交番と比較すると、駐在所の勤務員が対応する時間は年間の約20%となるのです。



2 駐在所の抱える課題

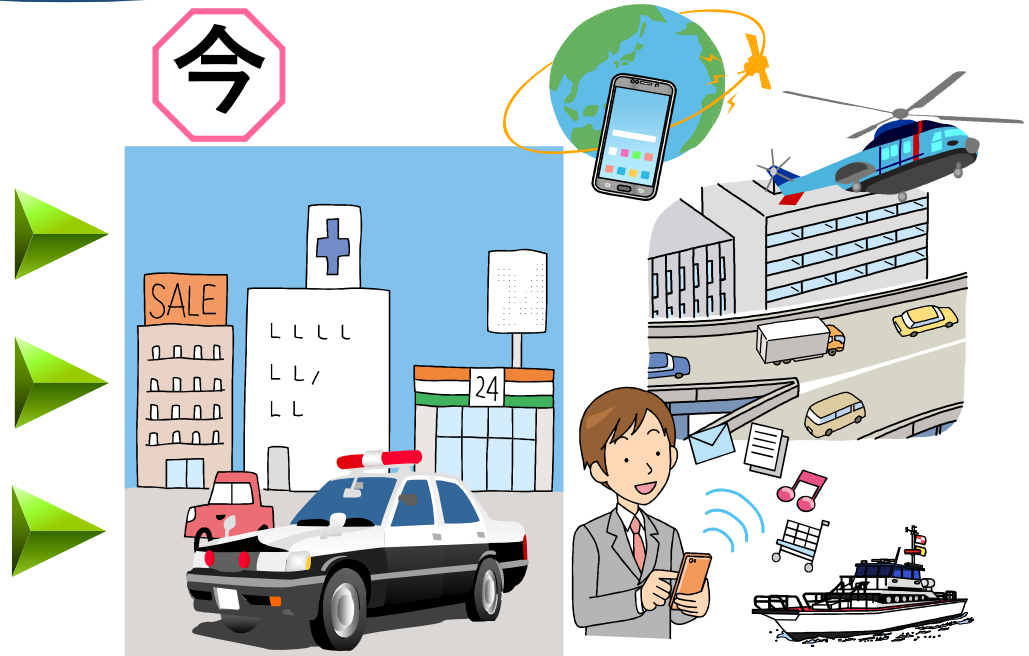
社会環境の変化

昔



- かつては移動手段や通信手段が限られていた
- 駐在所に警察官を分散配置しておくことが効率的とされてきた

今



- 道路環境が整備され交通手段も多様化
- 携帯電話やスマートフォンが普及して通信エリアが拡大
- 警察官を分散して駐在させておくことの必要性の低下

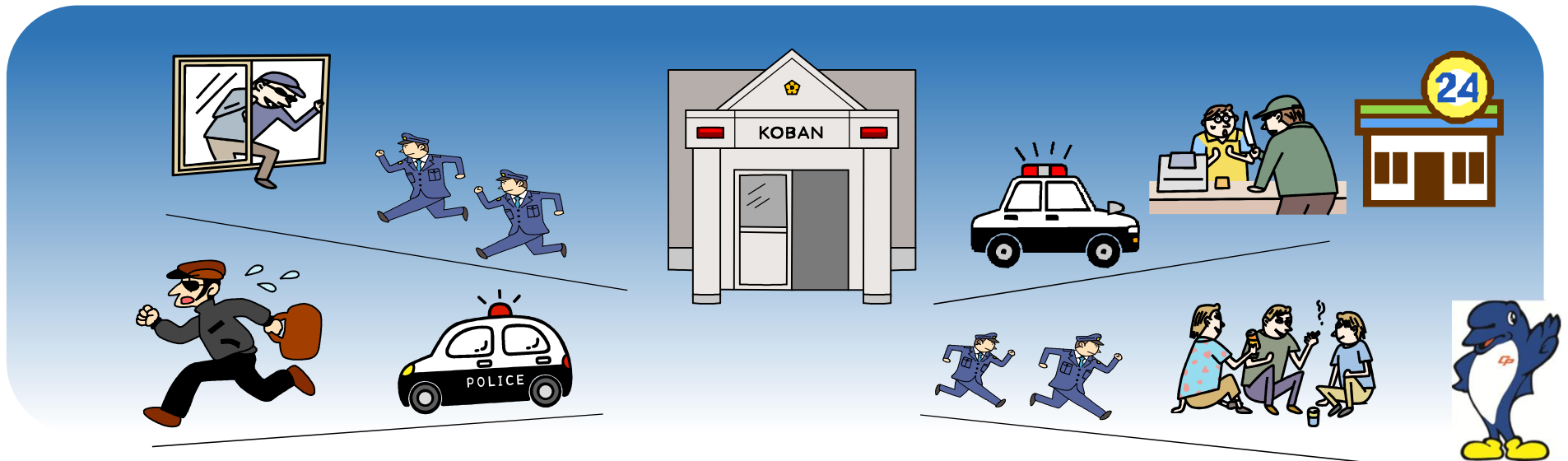


2 駐在所の抱える課題

常時警戒態勢の強化

事件・事故など、警察が対応すべき事象は、昼夜問わず発生しています。しかし、駐在所は日勤制勤務のため、夜間や休日は勤務時間外となり、近隣の交番やパトカーが対応しています。

事件・事故に対して、より効率的・効果的に対処するため、警察官の配置を集約し、県警として県民の方々が安全安心を実感できるための対応を進める必要があります。



2 駐在所の抱える課題

複数体制の確保

昨今の治安情勢を鑑みると、交番・駐在所における警察官の安全確保を考慮する必要があり、複数体制での事案対応が基本となりつつあります。

とりわけ夜間帯は、発生する事案の性質や受傷事故防止の観点から、複数の警察官による対応が求められています。

駐在所は単独での活動が多く、近隣の交番・駐在所と合同で活動するなど、連携して対応しています。



3 駐在所の在り方を見直す必要性

治安情勢



当県における令和6年中の刑法犯認知件数は、38,394件（前年比プラス856件）であり、コロナ禍明け以降、令和4年から3年連続で増加し、令和7年も昨年を上回る状況で推移しており、特に強盗、粗暴犯、侵入窃盗などが夜間に多く発生しています。

そのほか、匿名・流動型犯罪グループによる強盗等の凶悪犯罪が連続発生したことなどにより県民の体感治安が悪化しており、変化する犯罪情勢に即した、効果的な犯罪抑止対策を推進する必要があります。



必要性



都市部の警察署は、地域警察官が交替制の交番で常時警戒態勢を保持しているのに対して、都市部以外の警察署は、日勤制の駐在所を多く抱え、特に夜間における警戒態勢の強化が喫緊の課題です。

このため、事件事故の取扱いが少なく、隣接する交番・駐在所等に対応可能な駐在所を閉所の上、24時間体制で警戒可能な要員を捻出し、署の限られた人材を最大限に有効活用し、管内全域の治安維持に向けた警察力を確保していく必要があります。



3 駐在所の在り方を見直す必要性

駐在所の基本となる分散配置から、警察力を集約する必要があります。



分散配置

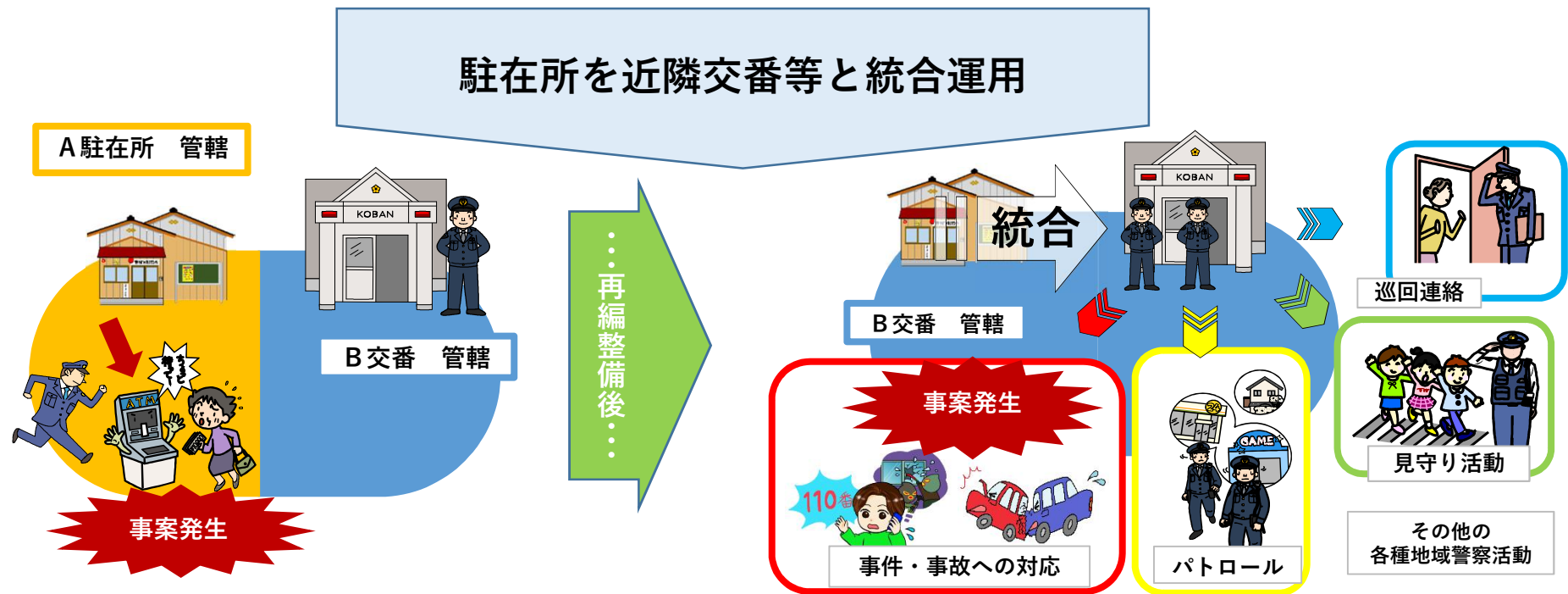
- 各地域に密着した活動が行える
- 狭い集落が点在し、移動手段や通信手段が限定されている場合は、駐在所が効果的
- ▲複数対応が必要なときには、事案対応の都度、近隣の交番や駐在所と連絡や調整が必要
- ▲1駐在所に1人の警察官が勤務しているため、街頭活動時は不在となる
- ▲配置先となる警察施設が複数あることで、施設運営の事務手続きと施設維持費が発生

警察力の集約

- 複数対応が必要な事案に対する連携が容易
- 複数の警察官が勤務することで、夜間や休日等においても交替して変わらぬ警察力を維持できる
- 街頭活動と警察施設に常駐しての市民対応が両立できる
- 重複した事案等の発生にも迅速に対応できる
- 警察施設の運営・管理が合理化できる

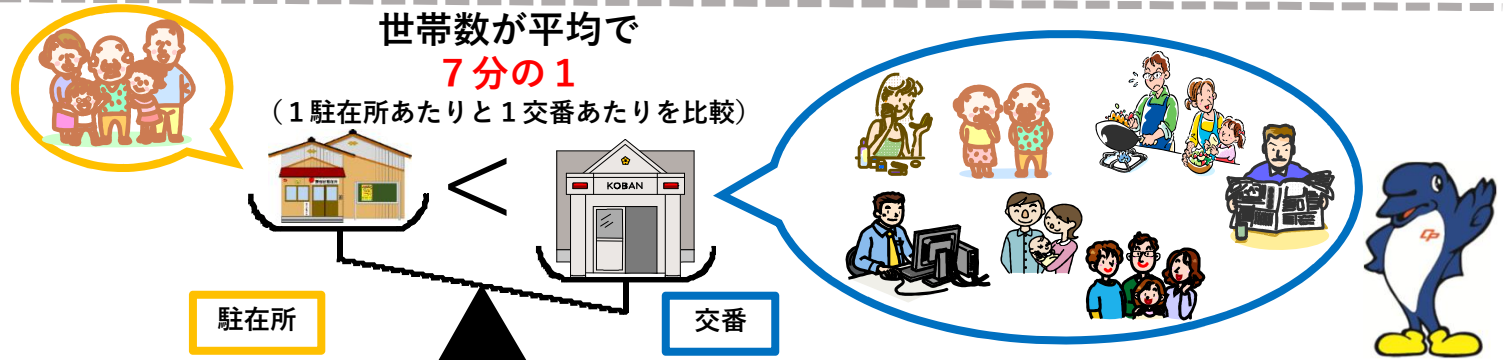


4 再編整備の主な内容



取扱いが比較的少ない駐在所を閉所とし、近隣の交番に管轄区域を統合運用します。それにより管轄を交番が受け継ぐことで、昼夜の別なく迅速に事件・事故等に対応できます。

受け持ち世帯数で比較すると、駐在所は交番より世帯数が少ないため、統合して受け持つことが可能



4 再編整備の主な内容

駐在所を近隣駐在所に統合

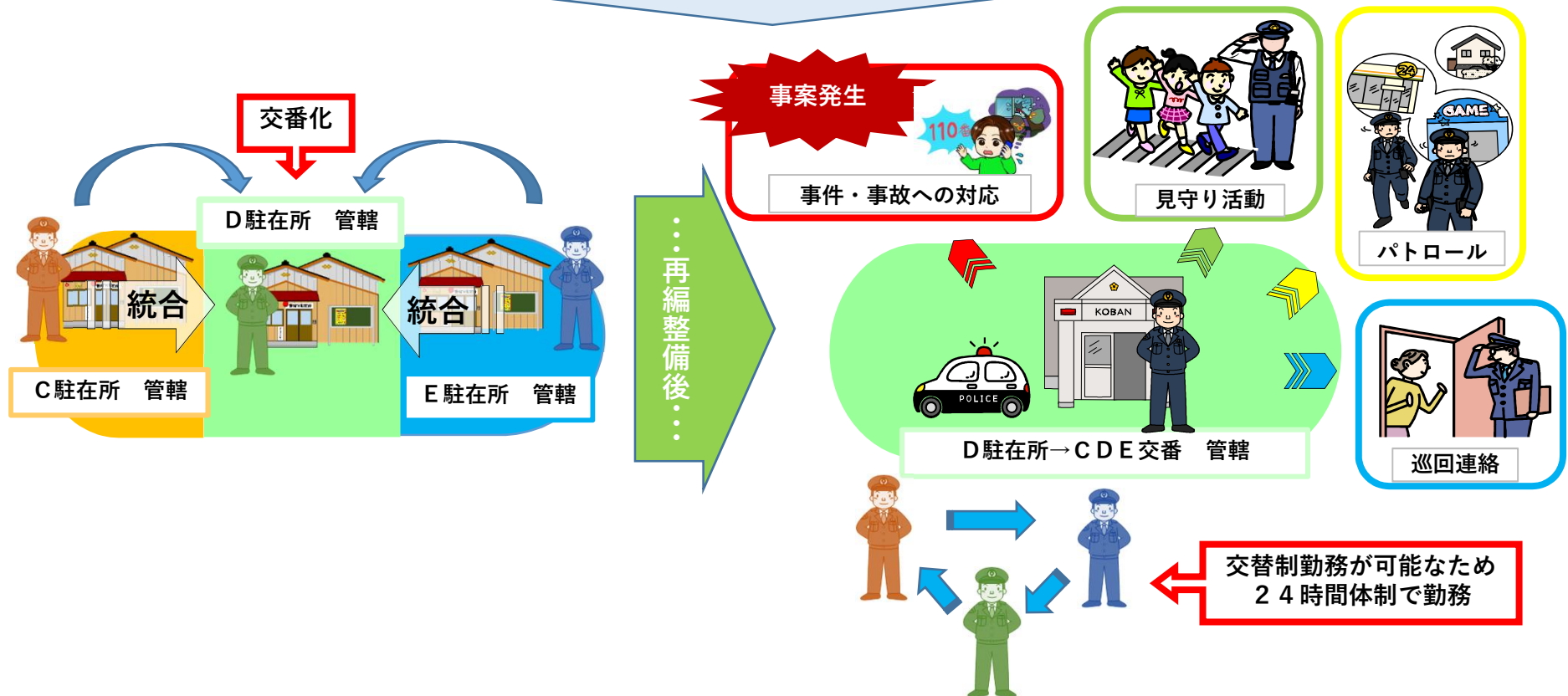


取扱いが比較的少ない駐在所を閉所とし、近隣の駐在所に管轄区域を統合します。近隣の駐在所に統合することで、「自宅を受け持つ警察官がいなくなる」ということはありません。対象の駐在所で勤務していた警察官は、引き続き同じ警察署の管内で勤務するため、警察署全体の人員は変わりません。



4 再編整備の主な内容

複数駐在所を統合し新規交番を設置



複数の駐在所を統合することで、24 時間体制で事件・事故の対応をする交番の勤務員を増員できるため、夜間の体制を強化することができます。パトロールや巡回連絡等も引き続き実施しますので、「自宅を受け持つ警察官がいなくなる」ということはありません。



4 再編整備の主な内容



地域住民の不安を払拭するためにも、警察署に配備されている移動交番車の開設により、地域に寄り添った警察活動を維持してまいります。

また、パトカーなどの機動力を活用するなどして、安全安心を実感できる地域警察活動を展開してまいります。



5 おわりに

地域住民の皆さまの安全安心を守るのは警察の責務です。

交番・駐在所の再編整備は、社会情勢の変化や複雑化する治安課題に柔軟に対応し、警察力を効率的かつ最適に発揮するために実施するものです。

そのためにも身近で活動する交番・駐在所の適切な配置・運用が非常に重要となることから、今後も継続的に不断の見直しを行い、安全安心を実感できるくらしの実現に向けて取り組んでまいります。

